

研究種目： 基盤研究 (B)
研究期間： 2007 ~ 2010
課題番号： 19330186
研究課題名 (和文) 基礎教育における住民参加・地域運営の取り組みと国際協力のあり方に関する比較研究
研究課題名 (英文) Comparative studies on community participation and international cooperation in basic education
研究代表者 浜野 隆 (HAMANO TAKASHI)
お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学研究科・准教授
研究者番号： 00262288

研究代表者の専門分野：国際教育開発
科研費の分科・細目：教育学・教育社会学
キーワード：初等教育、幼児教育、ベトナム、カンボジア、住民参加

1. 研究計画の概要

(1) 基礎教育 (初等教育・幼児教育) における住民参加や地域運営の取り組みの実態とその発生・変容のメカニズムを解明する。その際、事例としてベトナムとカンボジアを取り上げる。

(2) ベトナム・カンボジアにおいてこれまでに実施されてきた基礎教育分野の国際協力プロジェクトを分析し住民参加・地域運営の位置づけを明らかにする。

(3) 各国の教育行政官・教育研究者との交流により、住民参加・地域運営を視野に入れた教育協力モデルを検討する。そして、これらの研究をもとに、これまでに実施された国際協力プロジェクトを分析し、そこに住民参加という視点をどのようにプロジェクトが包含していたか、プロジェクトの成否とその要因は何かを検討し、効果的な教育協力モデル構築に向けた提言を行なう。

2. 研究の進捗状況

ベトナムに関しては、基礎教育における住民参加の形態として実施が進んでいる「教育の社会化」事業に関する分析を行なった。ベトナムにおいては特に基礎教育の中でも初等教育の質保障に関する規定の作成やプロジェクトの実施が進んでいること、また、質の保証に関しては、国家基準の制定とともに、社会経済的な困難を抱えた地域に特に向けた最低基準 (FSQL) の設定が進んでいること、その中で教育の社会化の役割が重視されていること、住民参加が教育格差の是正に積極的な役割を果たしている地域があることが明らかになった。これらの調査結果を踏まえ、ベトナム語での中間報告資料を作成し、

関係者との共有を図った。

カンボジアに関しては、基礎教育における就学レディネス (就学前の小学校準備状況) の測定を5歳児、6歳児に関して追跡的に実施した。その就学後の効果について、住民参加が進んでいる地域とそうでない地域との比較を次年度に行なう予定である。カンボジアの幼児教育に関しては、コミュニティの参加を重視した形態の幼稚園が国際支援等によって進められていること、都市部と農村部との間で、保育に関する施設設備 (トイレや水の利用可能性) や親の子どもへの本の読み聞かせ等の実践において差がみられること、カンボジアの幼児教育における格差は、階層間・地域間のみに見られるもののみならず、幼児教育の形態間・形態内の格差も存在する。幼児教育の形態間・形態内の格差は家庭の所得とも密接に関連しており、所得格差が幼稚園の選択に顕著に現れていることが明らかになった。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

当初計画していた対象国 (ベトナム、カンボジア) において研究計画に沿った調査が実施されていること、また、これまでの研究の結果に関して関係者で成果の共有がされていること、学会発表 (国際学会を含む) や学術雑誌等への論文掲載などを通じて研究成果の発信も当初計画通りに進んでいることが理由としてあげられる。当初計画の範囲を超えた研究には着手しておらず、評価は「②おおむね順調に進展している」とした。

4. 今後の研究の推進方策

22年度は最終年度なので、最終調査（データ収集）とその分析・報告書作成を行なう。基礎教育の住民参加に関する理論的検討にもとづき、これまで実施した調査の分析、幼児ケア及び発達に関する基礎資料を国内外の国際教育開発専門家らと共有したうえで、研究者との意見交換、国際協力実施機関との協議を行ない、研究成果発表につなげていく。昨年度に作成した中間成果資料をもとに現地との意見交換を実施する。特に、最終年度は、各国の教育行政官・教育研究者との相互検討により、住民参加・地域運営を視野に入れた教育協力モデルを構築し、プロジェクトの成否とその要因は何かを検討したうえで、効果的な教育協力モデル構築に向けた提言を行なうという課題が残されている。その意味で、現地との関係者との交流を重視する必要がある。

現地調査において基礎教育関係機関の政策担当者および研究者と意見交換を行ない、対象地域においては調査を実施する。データベース化された調査についてはデータを購入手（ベトナム家計調査）、世帯レベルでの個票の分析を行う。

事例とした地域の追跡調査も実施する。ベトナムにおいては住民参加と教育実態に関する最終調査、カンボジアにおいては、基礎教育における住民参加の役割と援助プログラムの効果に関する最終調査を実施する。

現地調査に関してはすでに打ち合わせとプリテストを実施し、現地行政機関の同意、調査対象者の同意を得ているが、一般的には追跡調査の際、回収率が低くなる傾向が見られるので、現地との協力関係をさらに強化する、連絡を密に取るなどの対応により回収率の低下を回避したい。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 15 件）

① 浜野隆, 2010, 義務教育制度の弾力化と質保証—ベトナムの事例—, 比較教育学研究, 41, 査読有, 印刷中（掲載決定済）, 査読有.

② Takashi HAMANO, 2010, Inequality and Disparity in Early Childhood Care and Education: The Case of Cambodia, *Proceedings: Science of Human Development for Restructuring the Gap Widening Society*, 9, 1-8, 査読有.

③ Takashi HAMANO, 2009, *Community Participation and Disparity in Education:*

The Current State of and Challenges for the Socialization of Education in Vietnam, Proceedings: Science of Human Development for Restructuring the Gap Widening Society, 5, 37-44, 査読有.

④ Takashi HAMANO, 2008, Educational Reform and Teacher Education in Vietnam, *Journal of Education for Teaching*, 34(4), 397-417, 査読有.

〔学会発表〕（計 2 件）

① Masato NODA, Morikazu USHIOGI, Takashi HAMANO, Implementation Policy of Full-day Schooling in Vietnam Primary School, The 13th World Congress on Comparative Education Studies, 2007 年 9 月 3 日, Sarajevo, Bosnia and Herzegovina

〔図書〕（計 6 件）

① 浜野隆・垂見裕子（監訳）, 2010, 疎外された人々に届く教育へ, 日本トライリンガル, 40.

② 浜野隆・垂見裕子（監訳）, 2009, 格差の克服—ガバナンスはなぜ重要か, プリコ, 40.